



(奈良)

調査は講堂の薬師三尊像の修理作業所建設の事前調査として行なったもので、西僧房の北方約一三〇mの地点、平城京の条坊では右京六条二坊十五坪にあたる。調査面積は八〇m²である。検出した遺構は溝一条と土坑三基でいずれも中・近世のものである。奈良時代の瓦なども出土したが、これらは遺構に伴うものではない。

主要伽藍のある旧寺城南

奈良・薬師寺旧境内

- 1 所在地 奈良市西ノ京町
- 2 調査期間 一九九三年(平5)七月
- 3 発掘機関 奈良国立文化財研究所平城宮跡発掘調査部
- 4 調査担当者 代表 町田 章
- 5 遺跡の種類 寺院跡
- 6 遺跡の年代 奈良時代〜現代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査は講堂の薬師三尊像の修理作業所建設の事前調査として行なったもので、西僧房の北方約一三〇mの地点、平城京の条坊では右

半では創建当初の遺構がよく残っているが、北側は遺構が希薄で創建当初の遺構はほとんど認められない。今回も同様の結果となった。木簡は三点で東西溝から出土した。伴出した遺物は中世後期〜近世前期のものである。

8 木簡の积文・内容

- (1) □彦五郎

(94)×55×6 019

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『一九九三年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報』(一九九四年)
(寺崎保広)

